

1990年 6月 8日(金)～ 7月29日(日)

寄贈品コーナー

平塚の空襲と戦災

6月8日～7月29日



~~~~~ 上記の写真は昭和22年米軍撮影の写真ですが、現在の平塚  
警察署周辺地域を残し、そのほとんどが焼失しています。 ~~~~~

太平洋戦争下、平塚市は昭和20年代に入りたびたび空襲を受けています。現在知られているものだけでも12回におよびます。その中でも昭和20年7月16～17日の空襲は忘れることのできない空襲の一つです。

米軍の記録によるとB29爆撃機133機による大空襲で、たちまち旧市街地のほとんど、周辺部が業火に包まれ一面火の海と化しました。この空襲で市街地は見渡す限りの焼け野原と化し、全戸数の約70パーセント、7200戸が焼失したといわれ、死者の数も343名以上に上ったといわれています。がしかし、負傷者はもとより、その焼失面積等についても戦後45年を経た今なお、その正確な数は把握されていません。

そこで今回の展示では、現在判明している空襲に関する記録と資料を市民の皆様の寄贈品を中心に展示し、空襲の実態に迫りたいと考えます。平塚の空襲は、平塚の歴史上その

例を見ない災禍であり、尊い人命と数々の財産が失われました。

平塚市博物館では平成元年6月より、市民の皆様方とともに「平塚の戦災と空襲を記録する会」を発足させ、このような空襲の事実を後世に伝えるべくさまざまな調査活動を進めております。この記録する会の目的は、戦争がもたらした多くの不幸な体験と悲惨な事実をできるだけ掘り起こし、正確な記録を後世に伝えて行くことです。

今、市内の調査を進めていますが、45年を経た今日でも市内各地域に空襲の傷跡を見ることができます。その一つに、今でも残る焼けただれた電柱を市内追分に見ることができます。この展示を機会にそうしたものの情報を是非お寄せ下さい。また、空襲・戦争に関する資料も収集しております是非御寄贈くだされば幸いです。